第3章　紀ノ川駅周辺地区の概況

1. 位置

本市は、紀伊半島の北西部にあり、北はみどり豊かな和泉山脈ののどかな山並みに囲まれ、西は風光明媚な紀淡海峡に面し、紀の川の河口に位置しています。

高野山（高野町）や関西空港にも近く、大阪市内からは約70kmにあり、鉄道ではJR阪和線、南海本線で、道路では阪和自動車道を利用して約1時間の距離にあります。

市域は、南北17．5km、東西29．0km、総面積208．85k㎡で、中央部を紀の川が流れ、河北と河南に分かれています。

出典：電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

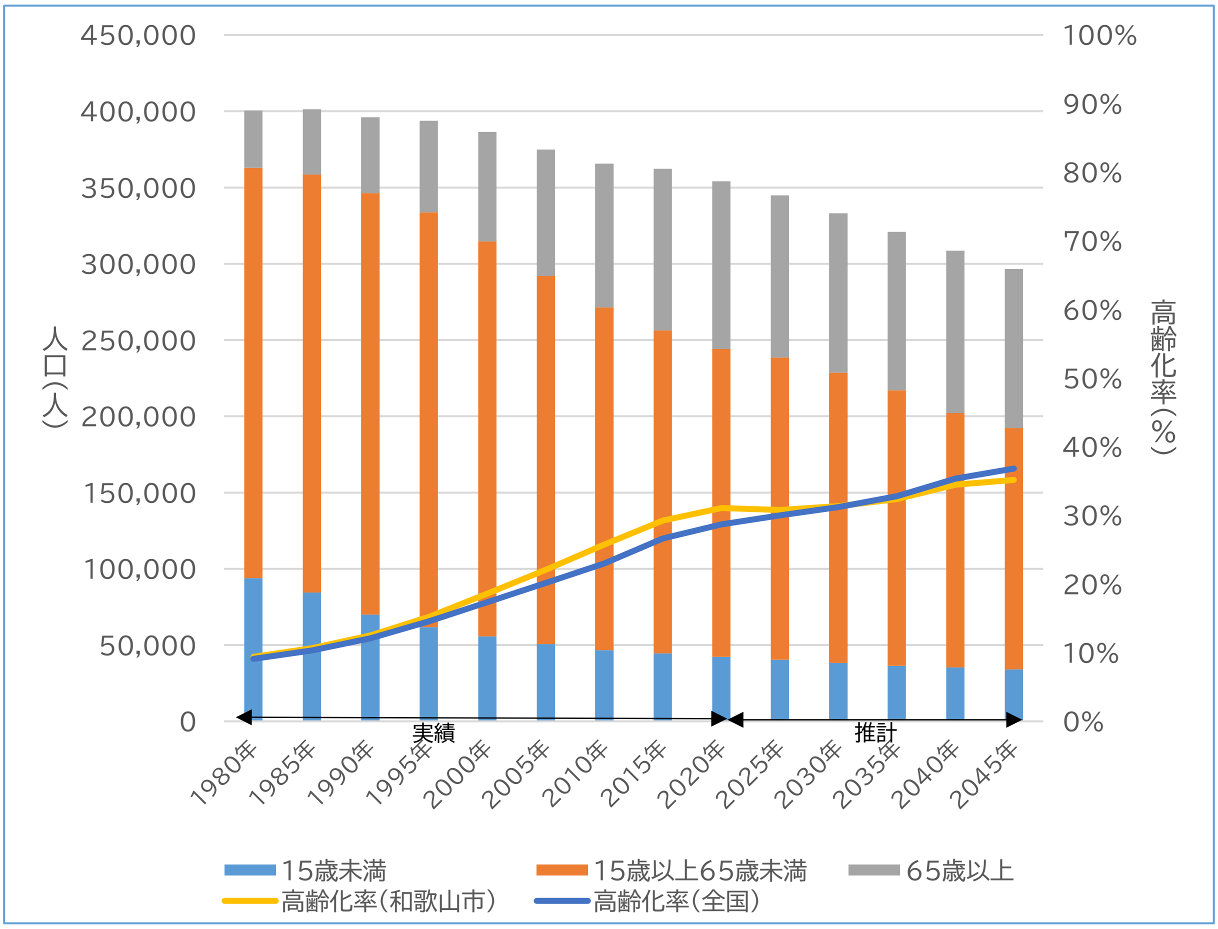
図3-1　和歌山市の位置

2. 人口

(1)人口及び高齢化率の推移

本市の人口は、1985年(昭和60年)の401，352人をピークに減少傾向となり、2020年(令和2年)には356，729人で約11．1%の減少となっています。

将来的にも減少が続き2045年(令和27年)には約30万人にまで減少すると見込まれています。また、高齢化率は2020年(令和2年)時点で31．1%となっており、このまま上昇し続けて2045年(令和27年)には35%を超えると推計されています。



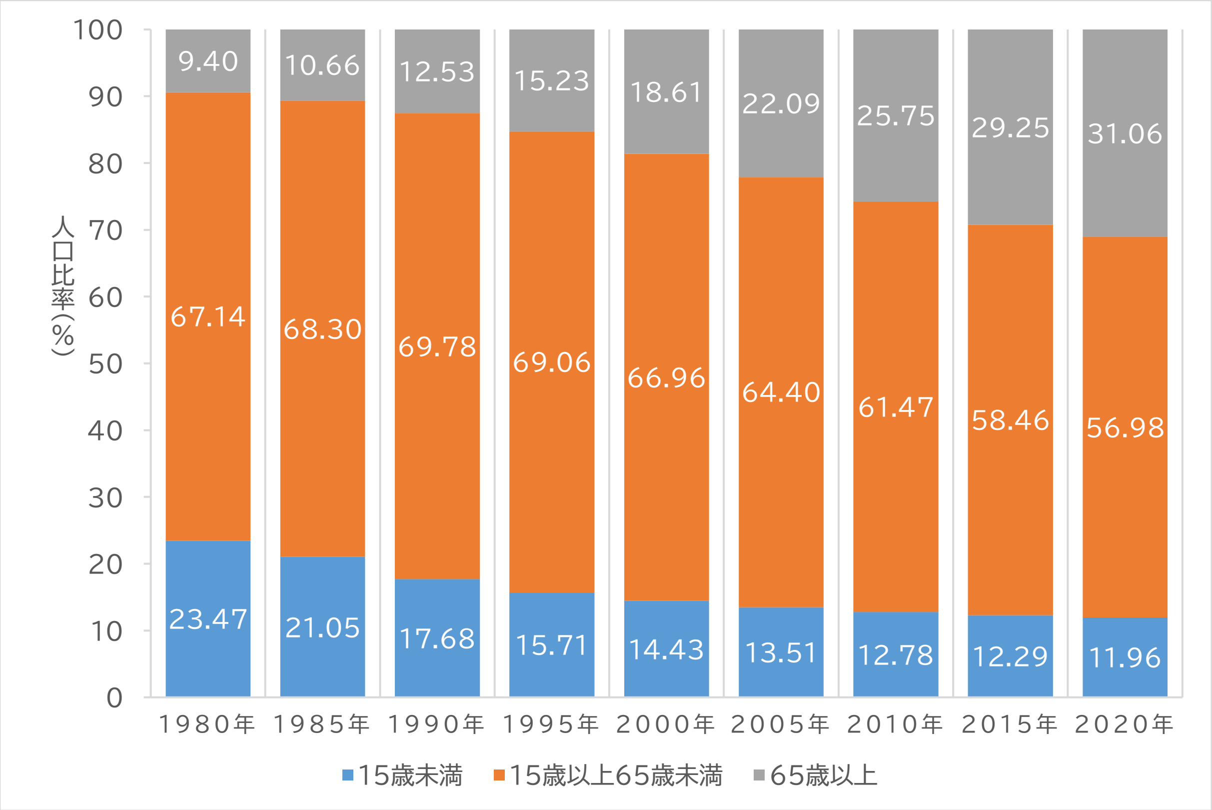
(注)2020年(令和2年)までは総務省「国勢調査」(2015年(平成27年)及び2020年(令和2年)は不詳補完値による。)、2025年(令和7年)以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2017年(平成29年)推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

出典:【実績】国勢調査 【推計】国立社会保障・人口問題研究所

図3-2 人口及び高齢化率の推移

(2)年齢階層別人口

本市の年齢階層別人口は、1980年(昭和55年)から年少人口(15 歳未満)が減少、老年人口(65 歳以上)が増加し続け、2000年(平成12年)には年少人口を老年人口が上回る少子高齢社会が到来し、2020年(令和2年)には年少人口が11.96%、生産年齢人口(15 歳以上 65 歳未満)が56.98%、老年人口が31.06%となっています。

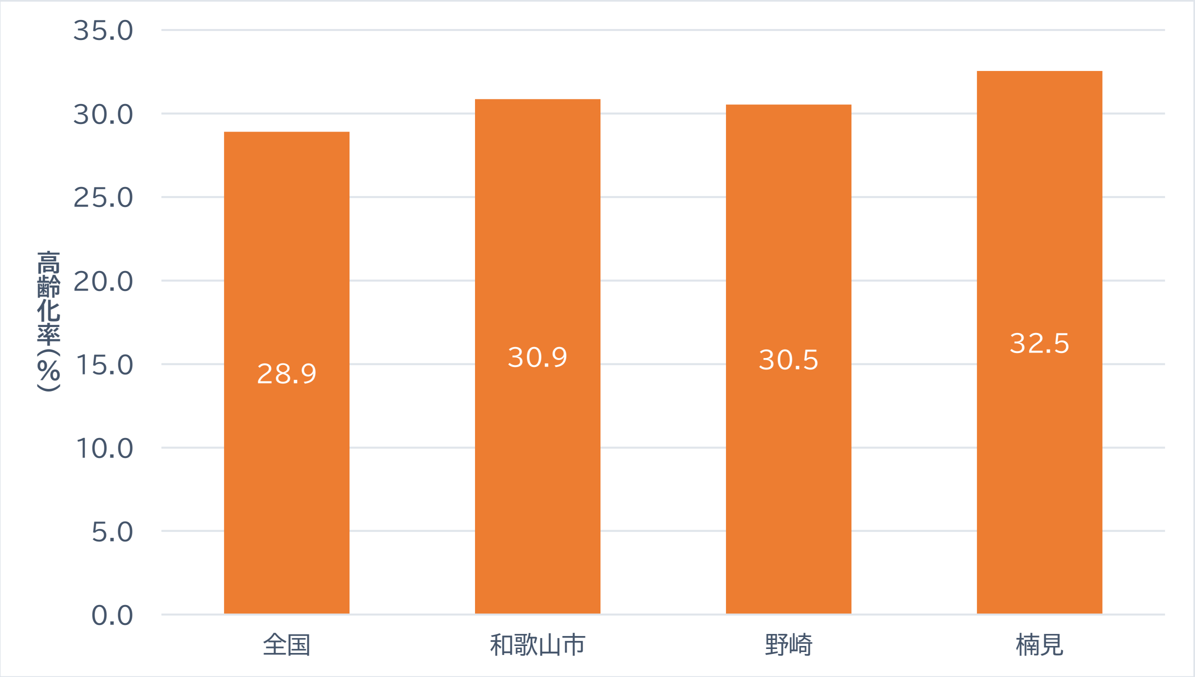


出典:国勢調査

図3-3 年齢階層別人口比率の推移

（3）地区別の高齢化率

本市の高齢化率は、2022年（令和4年）で30．9％と全国平均の高齢化率28．9％を上回っています。市内の高齢化率は地区により差があり、雑賀崎・田野・加太地区は約50％と高齢化率が高く、近年開発が進んでいる貴志地区では約20％と高齢化率が低い傾向となっています。今回バリアフリー基本構想を策定する紀ノ川駅周辺の野崎・楠見地区の高齢化率は全国平均値よりは高く、本市平均値の30．9％に近い比率で、野崎地区は30．5％、楠見地区で32．5％となっています。

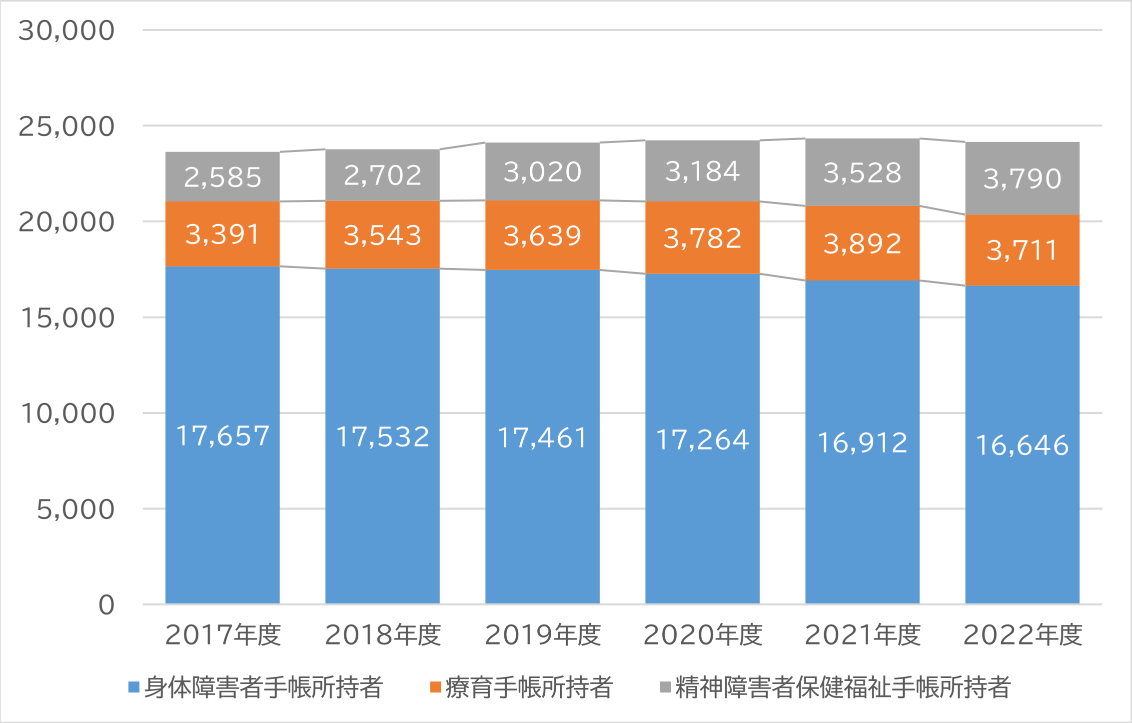


出典：全国値は2022年（令和4年）版高齢社会白書より
その他は住民基本台帳（2022年（令和4年）12月31日現在）より

図3-4　地区別の高齢化率

(4)障害者数の推移

本市の障害者手帳所持者数は、2022 年度(令和4年度)において、2021年度(令和3年度)よりも微減となっていますが、精神障害者保健福祉手帳所持者は2017年度(平成29年度)の2,585人から約1.5倍増加の3,790人となっています。



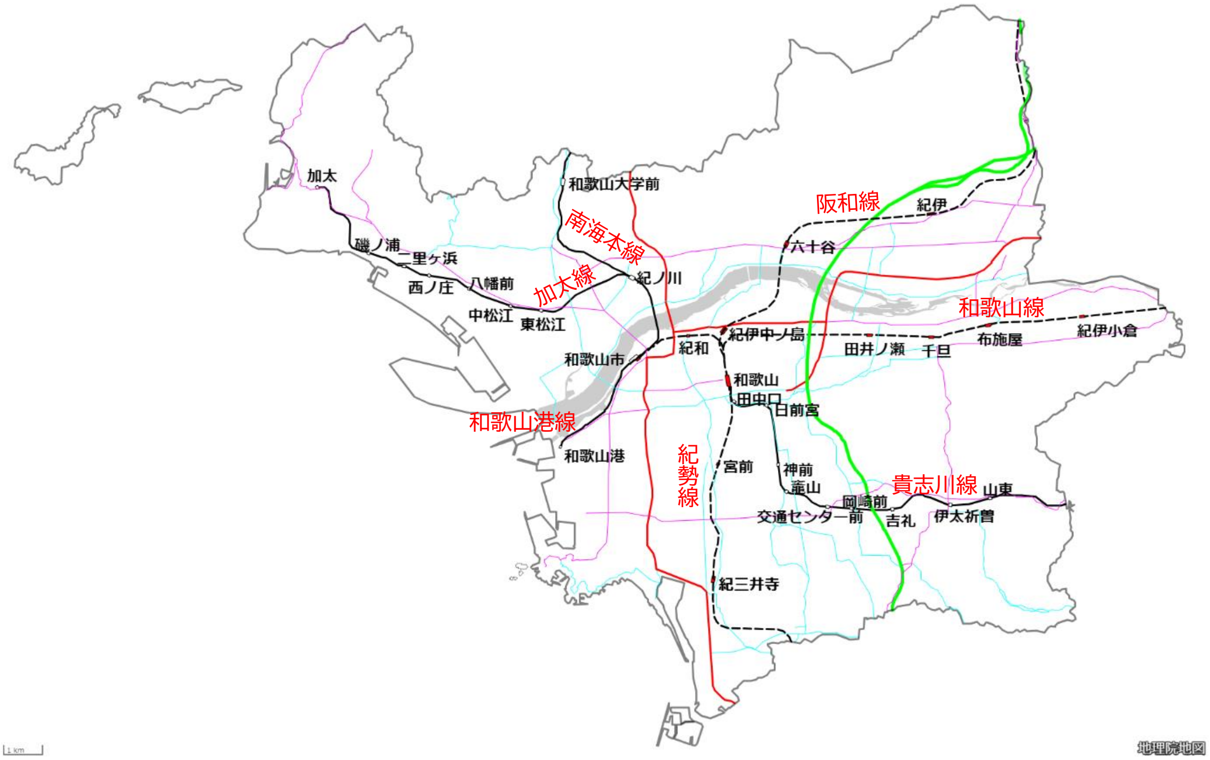
※資料:和歌山市障害者支援課、保健対策課 各年度3月 31 日現在

図3-5 障害者手帳所持者数の推移

3. 公共交通機関の状況

(1)和歌山市の鉄道網

本市の鉄道網は、西日本旅客鉄道株式会社による阪和線、紀勢線、和歌山線と南海電気鉄道株式会社の南海本線、加太線、和歌山港線、及び和歌山電鐵株式会社による貴志川線の7路線で形成されています。



出典：電子地形図25000（国土地理院）を加工して作成

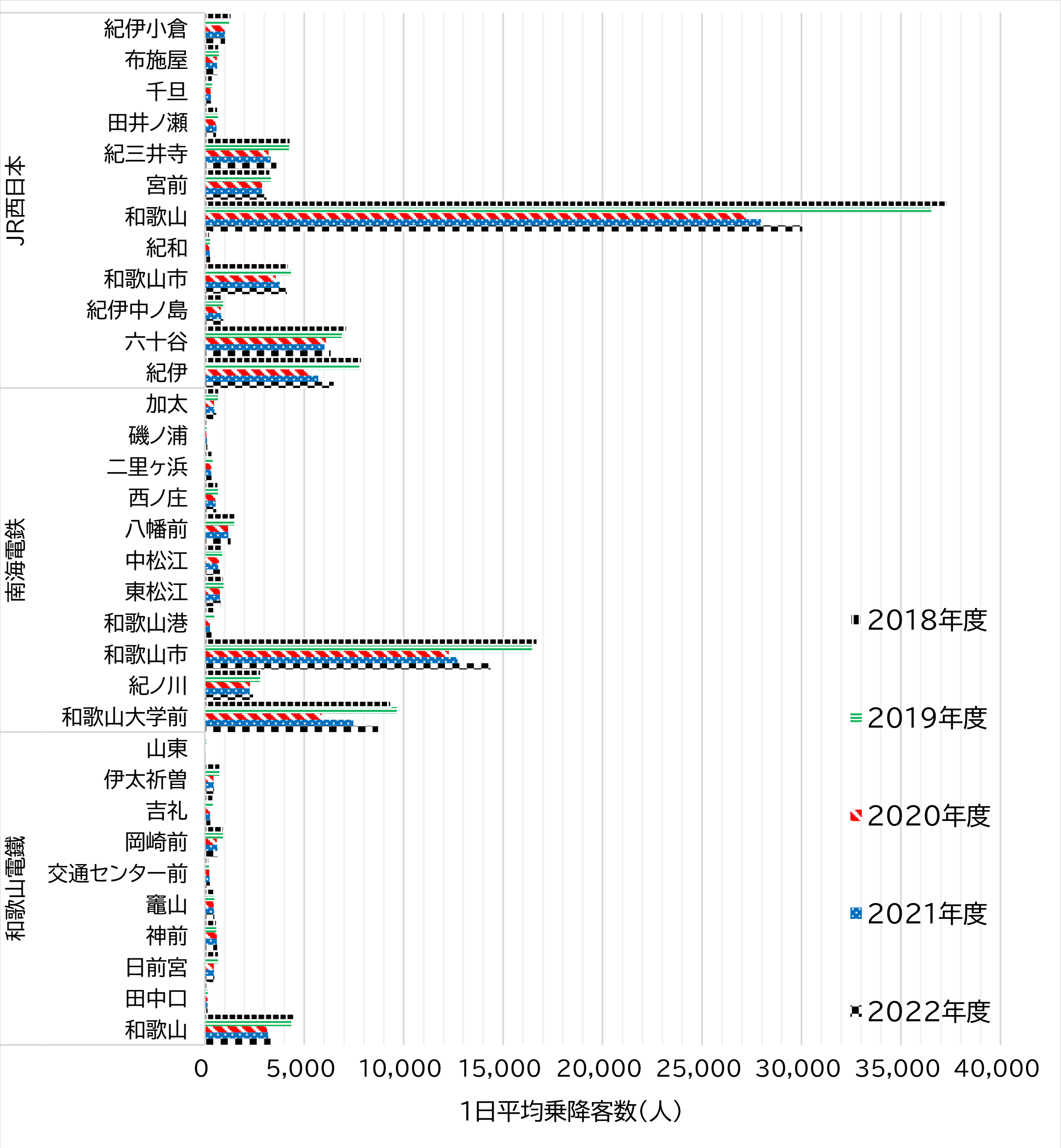
図3-6　和歌山市の鉄道網

（2）旅客施設の乗降客数

2022年度（令和4年度）の1日あたりの平均乗降人員は、JR和歌山駅が30，000人を超えて最も多く、次いで、南海和歌山市駅の約14，000人となっています。

2020年度（令和2年度）は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市内全駅の乗降客数は2019年度（令和元年度）の75％に減少しました。

紀ノ川駅では、2018年度（平成30年度）に2，823人と3，000人に迫っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2021年度（令和3年度）には2，259人と80％まで減少しました。2022 年度（令和4年度）は 2,437 人と回復傾向にあります。



※資料　西日本旅客鉄道株式会社、南海電気鉄道株式会社、和歌山電鐵株式会社より

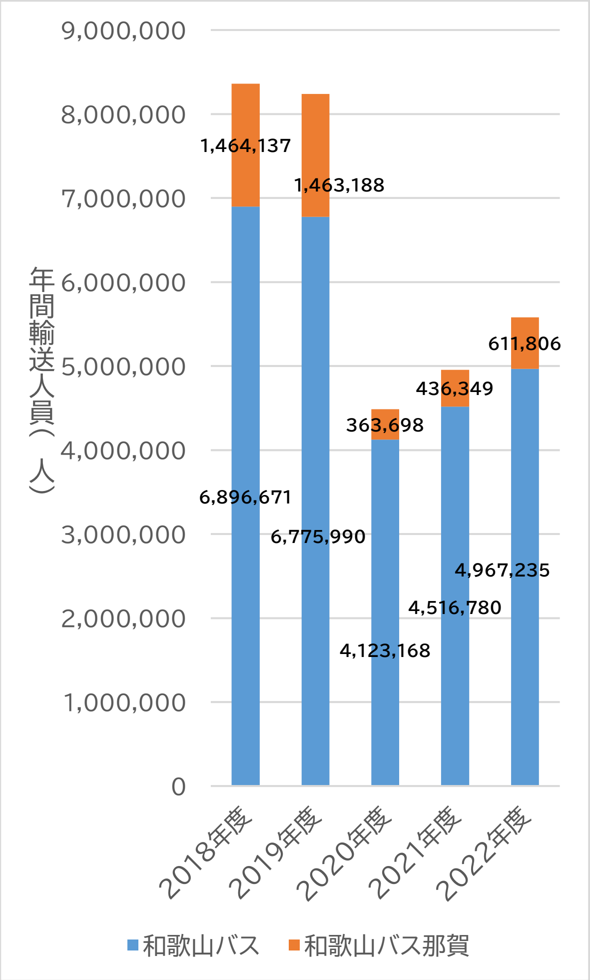
図3-7　旅客施設の乗降客数

（3）和歌山バスの輸送人員

本市の路線バスは、和歌山バス株式会社と和歌山バス那賀株式会社によって運行されています。JR和歌山駅と南海和歌山市駅の2つの主要鉄道駅を中心として放射線状にバス路線が形成されており、両駅間を10～15分間隔で運行しています。

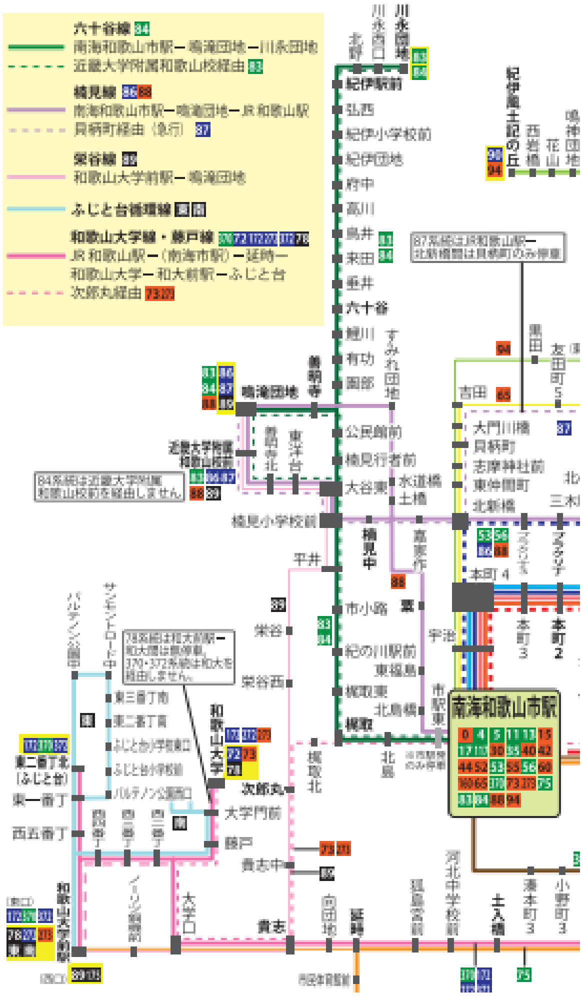
2022年度（令和4年度）の年間輸送人員は2社合わせて約557.9万人で、新型コロナウイルス感染症の流行前の2019年度（令和元年度）と比べると約67.7%に減少しています。

紀ノ川駅周辺地区を通る路線は、南海和歌山市駅から鳴滝団地・川永団地を結ぶ六十谷線で、県道152号紀ノ川停車場線と県道150号紀ノ川停車場平井線上に、梶取東・紀の川駅前・市小路・平井の4つの停留所があります。



※資料　和歌山バス株式会社、和歌山バス那賀株式会社より

図3-8　路線バスの輸送人員



※資料　和歌山バス株式会社より

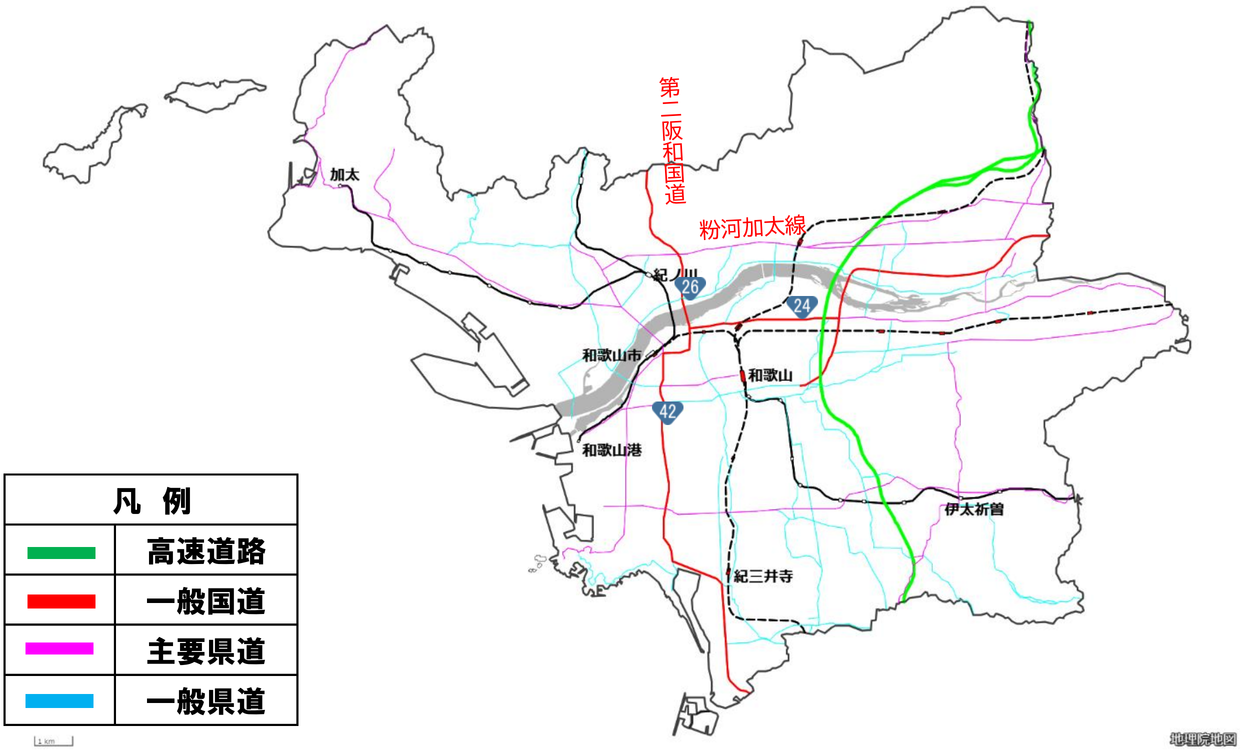
図3-9　バス路線図

4. 道路の状況

和歌山市の主要道路網

本市の主要道路網は、国道24号、26号及び42号を骨格に、主要県道、一般県道により市内各地や近隣市町を結ぶ道路網が形成されています。

紀ノ川駅周辺地区の主要な道路としては、北側を東西に主要県道粉河加太線が、また、東側には第二阪和国道、西側には県道152号紀ノ川停車場線及び県道150号紀ノ川停車場平井線がそれぞれ南北に通っています。



出典:電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成

図3-10 和歌山市の主要道路網